

*****ここから『電子耕』*****

隔週刊「78歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第112号

-健康・農業・食・図書・人物情報・高齢者と若者の交流誌-

2003. 6. 26 (木) 発行 西東京市・ひばりが丘 原田 勉

*****発行部数 1763 部*****

<キーワード>

健康・食べ物・農林園芸・図書を中心とした雑学情報を提供し、庶民の歴史も残す。高齢者と若者の交流ミニコミ誌。お互いに情報を交流しましょう。

□ 目 次 □-----

<読者の声>

長谷川さんから、丹羽さんから、大橋さんから、斎藤さんから、町田市公民館さんから、森さんから、斎藤さんから

<舌耕のネタ>「メルマガ4年目を迎える夏がやってきた」

<山崎農業研究所>総会とシンポジウム「水問題をめぐって」7月5日。

<中国農業問題の研究会>中国の畜産・酪農の現状と将来 7月12日

<丹羽敏明の戦争体験>12、シンガポール・作業隊に收容される

<日本たまご事情>「ホトトギスが鳴く・その2」愛鶏園・斎藤富士雄
「抗生物質大国ニッポン」?

<森 清の読後感>暉峻淑子『豊かさの条件』岩波書店、2003年5月刊、

熊沢誠『リストラとワークシェアリング』岩波書店、2003年4月刊、

<農文協図書館から>サイト更新情報 話題の図書『棚田の謎』

<ことぶき大学での講演とその報告>老いと病気体験に強く反応 原田勉

<私の近況報告>6月11日~23日 (大学生のメルマガ反応、)

<読者の声> (お断り：最近視力が極端に落ちました。そのため従来メールがきたらすぐ返信していましたが、それが出来なくなりました。今後メルマガ『電子耕』だけで返信・コメントいたしますので、ご承知ください)

●6/12 長谷川さんから：

「電子耕」111号ありがとうございます。長谷川です。

赤堀さんのお手紙と写真うらやましく拝見しました。

自分たちで安全なお米を作る、良いですね。

私の住んでいる船橋でも30年近く前には田んぼがまだ見られました。

今はもうすっかりなくなり、畑もどんどんマンションが建つようになっていま
す。

休耕田を田んぼに戻す。田んぼの中で微笑んでおられる村上さんととも88歳
とは思えません。

<舌耕のネタ>とあわせて戦後の食糧事情を思い出しました。

昭和20年は4歳でしたがそれから26, 7年ごろまで、いつもお腹がすいて
いたような気がします。

あの頃の思い出というと、小さな畑を借りて、サツマイモを作ったこと。大き
なお芋がたくさん出来てとても嬉しかったこと。でも毎日毎日お芋ばかりだっ
たこと。お芋のつるも結構おいしかったこと。

父親が「食べられる草」という本を買ってきて、本を片手に草を探して歩いた
こと。

昭和25年に疎開先から東京へ戻ってきたのですが、庭ははすべて畑になりト
マトやきゅうり、ジャガイモなどが作られました。少しでもあいているところ
があれば豆をまきました。鶏を飼い卵をとりました。自給自足の生活でした。

田んぼや畑がどんどんなくなっていく日本。何か1つ起きたらと考えると怖く
なります。

赤堀さんのような運動大切ですね。そして何かが起きないようにと願うばかり
です。

長谷川

「夢のかけら」 URL

<http://www.h3.dion.ne.jp/~nanchan/>

「桜隊」 URL

<http://www.h6.dion.ne.jp/~skr-tai/>

○原田からのコメント：

愛読ありがとうございました。

平和と食を守る。これは永遠の問題です。

●6/12 丹羽さんから：

111号配信有り難うございました。移動劇団桜隊の記事を懐かしく拝見しま

した。丸山定夫、園井恵子、好きな俳優でしたので復員後原爆犠牲者と知り大変落胆しました。丸山定夫の吉良上野の演技を越える人は未だにいないと私は思っています。

シンガポールのチャンギー作業隊に所属しておられた春日吉五郎さん（千葉県在住）という方が、当時チャンギー刑務所に収容されていた戦犯の方々が、煙草の箱の裏や獄房の壁に書いた辞世の歌を日本人弁護士が書き写したものを、ひそかに書き留めて持ち帰られ、知らせて下さいました。その一部をご紹介します。

『裁くもの戦争に勝ちし国なれば己れのまこと通ぜざらまし』『獄中に病める身なれどいたわしやつれなき兵の答はとび来る』『おののきし悲しみもなし絞首台母の笑顔を抱きて行かなむ』『明日の日は如何なる所に行くならむ極楽といひ地獄といふに』『夜は更けぬしんしんとして降る雨に神のお召しをかしこみて聴く』『久方に相見し戦友ののどけさよ刑のきまりて落ちつきやある』『刑せられ明日逝く戦友のなごりなる歌声とききて涙さそわる』『万歳の一声残し逝く戦友の面影しのぶ朝ぼらけかな』『身はたとへ南のはてに朽つるともすめらみくにを忘れざらめや』『鬼のごと扉をあけし監視兵朝飯蹴りて喰へといふなり』『見せばやと大和男子の真心を生き恥知らで生くる輩に』『悲しみも涙も怒りもつきはててこのわびしさをもちて死なまし』『友の往く読経のこえをききながら己が往く日を指おりて待つ』

○原田からのコメント：

メール有り難うございました。

●6/14 大橋さんから：

全くのご無沙汰で忘れ去られたのではと心配なくらいです。

その後、お体の具合はいかがですか？

ここ数ヶ月、八王子で学校図書館の問題をどう考えていこうかと奔走、ついに『八王子に学校図書館を育てる会』を設立しました。生まれたばかりの会ですが、先進地区に学びながら、子どもたちの読書環境を少しでもよくするために何かできないかと考えていこうと思っています。

農作業の季節も始まり、今度の日曜日は田植えです。

そのまえに、と長沼の麦刈りをしました。『晴耕雨読』10で紹介します。

文中にはかけませんが、子どもたちには『麦の本』（農文協）を貸して、

麦茶作りをすすめています。

友人のお父さんが原田さんと同じ病名で入院、周囲をはらはらさせているそうです。

(86歳になられるのですが) 電子耕を紹介しました。

田んぼのおばさん

(HPが何故か開けなくなり調査中です。麦刈りの様子をアップしたいのですが)

「中P連事務局員の不可解な日々」

<http://homepage3.nifty.com/half-farmer/>

○原田からのコメント：

お元気の様子で安心しました。

学校図書館運動に、貴女のやってる「麦の本」と麦茶づくりの学習を連携するのはいい考えですね。同じく、「イネの本」とイネづくりを課題にしてはいかがでしょう。

その実践を写真で送って下さいませんか。

私も元気を取り戻し、今日は家庭菜園のきゅうりの収穫です。

野菜や花づくりで自然から免疫力を頂いています。

●6/20 斎藤淳さんから：

初めて通信させていただきます。

私は、横浜市戸塚区に在住の 斎藤 淳-サイトウ ジュン-と申します。ハ

ンドルネーム：Freecloud

2年前に定年退職したシニア・QCエンジニアです。趣味はウォーキング；旅行；万葉集；モーツァルト研究 読書です。2年前夏、イギリスの南方リゾート地ボーンマスへ1ヶ月英語研修のホームステイを体験しました。

PC歴：15年、ADSL接続をSo-Netから本年2月に立ち上げ。PC2台所有。(DTP；Note)

デジカメ-リコー製所有。自分のHome Pageは未作成。興味は有りません。

岩波書店：荒川じんぺいのパソコン「生きがい」塾を昨年2月購入。

先日、戸塚・有隣堂で原田様の著書を立ち読みして、面白いと感じて求めました。

私より、14歳先輩の貴兄が難病を抱えながらメルマガ「電子耕」を3年間発行継続されていること、その熱意に感心しました。読者に生きる勇気を与えてくれるフェロモンの匂いが致しました。

巻末紹介の電子耕HPにアクセスして、創刊号-5号；最新号#111号(03.6.12)だけ拝読させて頂きました。111号の《読者の声》の田んぼの話題は戸塚舞岡；泉区天王の森の地名を発見し、すっかり電子耕メルマガにはまりました。各号に紹介の健康食記事も楽しく拝見いたしました。

昨年秋に農文協月刊誌に柿酢健康法特集が有り、TV4CHでも放映されて、庭の柿で私もドライイースト菌を入れて作りました。

今、流行のカスピ海ヨーグルトも菌を入手し、毎朝食しております。

健康には関心を持っており、103歳の近藤康男先生の長寿法もこの次に読ませて頂く予定です。

今後とも、宜しくお願いいたします。

○原田からのコメント：

よく読んで頂いてありがとうございました。

ぜひ、＜読者の声＞欄に載せさせてください。

18日に町田市のことぶき大学で「メルマガ体験」の話をさせていただきました。

112号に報告します。これから高齢者の不安・健康問題など勉強しなければと痛感しました。

こんごもどうぞよろしく。

●6/20 町田市公民館さんから：

昨日は蒸し暑いなか、どうもありがとうございました。

あわただしくて、十分にお世話できなかったことをお許してください。

受講生の感想を見ると感動した、勇気を得られたなど、講演会を喜んでくださったものが多く原田さんをお願いしてよかったと思っております。

感想は後ほどコピーして送付させていただきます。

ビデオと一緒に返却します。

今後は電子耕の一読者としてご活躍を見守りたいと思います。

またお目にかかる日を楽しみにしております。

ありがとうございました

橋本 久松

○原田からのコメント：

橋本さん久松さん

メール有り難うございました。

ぜひ、感想文をお願いします。

今後の課題を与えていただき感謝しております。

昨日はことぶき大学のお話ができで光栄でした。

多くの女性に驚きました。男子も合わせて皆さん熱心に聴いていただけてよかったですと思います。

最期に残った印象は「老いと病について」が一番好評だったのではないかと、これから私ももっと、高齢者の病気と健康法を勉強して電子耕に反映したいと思いました。これは教訓をいただきました。

有難うございました。青空コースの皆様にもどうぞ、お礼を申し上げます。

●森さんから：

次回稿、やや長くなりました。恐縮。

いま、丸谷才一の『輝く日の宮』を読んでいます。小説の醍醐味を味わっています。本が重く、源氏物語をしっかりと読んでいない者には理解しがたいところがありますが、それでも楽しめます。次回には挑戦してみるつもりです。

「予告先発」という制度にならって。森拝

○原田からのコメント：

森 清 さま

忙しいところを原稿メール有り難うございました。

次も楽しみにしています。

●斎藤さんから：

原田先輩

昨日(6/22)は埼玉のこの辺りで30℃を超えました、この暑さのなかでホトトギスとウグイスが同時に鳴いていました。

斎藤 富士雄

○原田からのコメント：

斎藤 さん

マスコミの決まり文句・固定観念は記者よりもデスクにあるのではないか。

反論のメールを送る必要がありますね。

ホトトギスの歌には感心しました。

<舌耕のネタ>「メルマガ4年目を迎える夏がやってきた」

1999年7月1日創刊した『電子耕』も4年目を迎える。当時、このコラムでも「日の丸・君が代の次は何か？」を掲げたら<読者の声>でも賛否の論議が盛んになった。

それから4年目、危惧していた「有事関連3法」も、6月6日あっさり民主党を含めた多数決で国会を通過してしまった。この4年間の変化は内外ともに大きい。

世界中を震撼させたアメリカの同時多発テロ発生から、アメリカの武力支配が始まった。アフガン爆撃、イラク戦争、多くの反戦デモがあったが強行された。日本もこれに賛成、イージス艦まで派遣した。さらに今度はイラク復興に自衛隊を派遣する「イラク支援法」を提出するという。

この動きには北朝鮮の核開発の脅威に対する警戒心の過剰反応が見られるが、憲法改正の動きもあるのではないか。自衛隊の任務はあくまでも「我国の平和と独立を守る」ことだ。日米同盟の基本的仕組みは米軍の槍、自衛隊の盾の役割ではないか。北朝鮮のミサイル基地を先制攻撃しても専守防衛に反しないと

考えている人がいるのでは、アジア諸国の信頼を失うことになる。

最近感じることは、北朝鮮の核開発宣伝もアメリカのイラク攻撃の大義も信用ならない。それに引き釣られている日本の指導者のいうことも信用出来ない。すべて疑ってかかる必要があることである。情報はすべて自分の考えを基礎に強固にする必要がある。

『電子耕』では、4年目以降も平和を守り「戦争反対」の姿勢は変えない。もう一つ命を大切にするとする意味で「ガンとの闘い」「食料の安全確保」「シニアの健康」を基調につづけたいと思っている。

3年以上の読者にも最近の読者にも感謝し、続いてのご愛読をお願いしたい。

<山崎農業研究所情報>総会とシンポジウム「水問題をめぐって」7月5日
太陽コンサルタンツ3Fで行う。

山崎農業研究所 はがき通信 No.189 2003.6.10

山崎農業研究所会員総会（2002年度）

山崎記念農業賞 贈呈式（第28回）

日 時：2003年7月5日（土）13時から17時

場 所：太陽コンサルタンツ（株）3階会議室

全体プログラム

（司会・進行） 渡邊 博 13：00

（開会・挨拶） 熊澤 喜久雄（所長） 13：00～13：15

1、 総会 事務局 13：15～14：00

1) 2002年度活動報告

2) 2003年度活動計画 ★NPO法人化に向けて

★活動計画

2、 第28回 山崎記念農業賞 贈呈式 14：00～14：50

沖縄県宮古農林高等学校環境工学科環境班：

(地下水を守り農業を発展させる広範な活動を展開)

3、図書刊行記念フォーラム 15:00～17:00

テーマ：農から変える「水の21世紀」

—水環境・多面的機能・コモンス—

- 1) 「農法転換による水環境の改善」 田淵俊雄
- 2) 「多面的機能論と農業用水」 坪井伸広
- 3) 「21世紀型水資源マネジメントの構想」 千賀裕太郎

以上の通り開催いたします。NPO法人化等今後の活動に向けた重要な議題を討議します。是非ご出席ください。(終了後懇親会)

〒160-0002 新宿区坂町2-6 ヴィップ第2四谷204
山崎農業研究所 Tel: 03-3357-6778 (Fax: -6398)

<中国農業問題の研究会>中国の畜産・酪農の現状と将来

東京農工大学農学部では、国際交流委員会と農工大日中友好会の共催事業として、下記の研究会を開催する。

日時：平成15年7月12日(土) 午後2時～4時15分

場所：東京農工大学農学部 新2号館 多目的講義室

テーマと講師

(1) 中国の畜産・酪農の現状と将来(講演)

千葉県農業共済連 岩瀬慎司(千葉県夷隅地区家畜診療所所長、獣医学科47年卒)

2000年3月から酪農技術交流訪中団に参加し、10回にわたる河北省・北京市と交流を続けてきた経験と業績を報告し、今後の中国酪農の展望を語る

(2) WTO加盟後の中国東北部の畑作と畜産—黒龍江省の畜産戦略(報告)

学術振興会外国人特別研究員 周 晓明(東北農業大学客員教授)

主要な食糧穀物であるトウモロコシ過剰が予測される中で、牛乳乳製品の需要の伸びに対応した乳牛の急激な飼養頭数拡大が図られている。そのホットな情報を紹介する。

なお、研究会のあと懇親会をもちます。(午後4時30分～6時30分、中

国留学生・在学生歓迎)

会員外の申し込みは、『電子耕』原田にメールで住所・氏名を書いて申し込み下さい。

<丹羽敏明の戦争体験> 12、シンガポール・作業隊に収容される
6/12

昭和21年2月6日夕刻、シンガポール・リババレーの英軍捕虜収容所（日本軍側の名称はリババレー作業隊）に着いた。衛門の脇にユニオンジャックが翩翩とひるがえっている。それに対して「ホチョー取れ、カシラー右」とやらされた。直属の上官もしくは国旗に対して行う行為をかつての敵の旗に対してやらされたのだから、その侮辱に鳥肌が立つ思いだった。悔し涙があふれ、屈辱感で胸が張り裂けそうだった。敗戦の惨めさを実感した。大半の者の口から「しょうがねえよ、負けたんだから」とつぶやく声が聞こえた。営庭でインド兵から所持品の検査を受けるが彼らの目ぼしいものは既に取り上げられているので簡単に終わる。

割り当てられたキャンプは、三角のテント張りで内部の左右が小高い板張りになっていて、片方に4人が並んで寝られる。中央に30センチ幅の通路がある。明かりは缶詰にラードを詰め、その中に布をこより状にして入れ火を灯す。テントの外には木箱がいくつかありバケツなどを置くようになっている。近くに水道の蛇口があるのは有り難かった。夕食は食事当番が炊事へ行ってもらって来る。雑炊（おじや）が飯盒の中蓋一杯だった。

ここの収容所は元英軍の捕虜が収容されていたそうだ。当時捕虜だった英軍の将校が現在の収容所長に返り咲き、それも二階級特進して大尉になったのだとか。神経質で所内管理には特に厳しいらしい。それらしく所内はおどろくほど清潔に保たれていた。作業から帰ったときは必ず持ち物検査をして作業場から盗んできた物はないか調べるらしい。違反した者がいた場合は同行の隊員全員が罰則を受けるのだという。罰則は夕食抜きで収容所内をOKがでるまで駆け足させられる。日本軍のようにビンタで済ませてくれればいいが、英軍のやり方は陰険なので困ると先輩たちはもらしていた。

明日からの作業のことが気になり、先輩の隊員に様子を聞いてみる。初めに行

かされる第一作業場は軍需物資の集積場で、巨大な鉄骨・鉄材・角材などの積み下ろし、移動、整理をやらされる。現場監督は入れ墨をした見上げるような豪州兵で通称赤鬼と呼ばれている奴らしい。明日からの作業が思いやられるが、作業場によっては楽な所もあるとか。例えば大工仕事だとか、左官仕事などを専門にやらされる所などは、先に収容所に入った部隊の中から専門職が選ばれて独占的に指名されて行っているらしい。それ以外はおおむね重労働を強いられると覚悟しておいたほうが良いと脅かされた。

<日本たまご事情> 「ホトトギスが鳴く・その2」 / 「抗生物質大国ニッポン」
? 愛鶏園・斎藤富士雄

6/22

◆ホトトギスが鳴く その2(6/22)

前回、ホトトギスの鳴き声にかこつけて、鶏卵の販売戦争を愚痴ったら、早速Mailを沢山いただいた。

畏敬するU先輩からは、

あの声で蜥蜴喰ふかやほととぎす 古川柳
ほととぎす聴く森陰に養鶏場 耳鍛冶

さらに同級生のカバKからは艶っぽい悲しい

こひ死なば 我塚でなけ ほととぎす
君は今 駒形のあたり ほととぎす

何れも遊女の句といわれる、「鳴いて血を吐く」のは、女であったノダ、と但し書きがついていた。

ホトトギス自由自在に聞く里は 酒屋に三里豆腐屋に五里
新聞を見ていたらこんなのがあったと知らせてくれた者もいる。

折角ホトトギスが鳴いているのだから、句の二つ三つ思い浮かばなければいかん、仕事のことを思い出す馬鹿がいるか、、、ということらしい。まったくそのとうりだ、句を楽しむ人たちにはどこか余裕がある。

◆「抗生物質大国ニッポン」?

6/14の朝日新聞に

ー「抗生物質大国ニッポン」が問われている家畜へ大量投与が続くー

という見出しで新聞1ページの記事になっていた。

要旨は家畜に大量に使用された抗生物質が耐性菌を生み出し、人間の病気治療を困難にしているというものである。

<http://www.be.asahi.com/20030614/W13/0040.html>

今の畜産経営が経済効率を追いかけるあまり、無理な飼育環境を家畜に強いるので抗生物質ほか薬剤に頼るようになる、、などいつもの近代的な畜産批判を展開している。

しかし良く読んでみると、事実は10年前に比べて、家畜全体に対する抗生物質使用量は半減しているにもかかわらず、記事全体から受ける印象は、いまだにそれを大量に使用と、一般読者は受け取るようになっている、マスコミの恐ろしさである。

こと鶏卵生産に関しては、ほとんどの経営がケージ、バタリーシステムになり飼育方式を地面から鶏を切り離すことと、小群飼育にすること、さらに種々のワクチンの開発によって無抗生物質生産が可能になった。

しかし一般消費者の人々にはこの事をなかなか理解してもらえない、あのように狭いケージ、バタリーに鶏を押し込めて無理をしているのだからきっと抗生物質などを使っているに違いない、、、となる、更にこのようなマスコミが追い討ちをかけて、疑いは確信になる、とても残念だ。

今の鶏卵生産の事実を根気よく一般消費者に伝える努力を続けねばならない。

齋藤 富士雄

(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

<森 清の読後感> 暉峻淑子 『豊かさの条件』 岩波書店、2003年5月刊、740円+税

熊沢誠 『リストラとワークシェアリング』 岩波書店、2003年4月刊、740円+税

暉峻淑子 『豊かさの条件』 岩波新書、2003年5月刊、740円+税

http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn0305/sin_k119.html

熊沢誠 『リストラとワークシェアリング』 岩波新書、2003年4月刊、740円+税

http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn0304/sin_k117.html

相前後して刊行されたこの2冊は、呼応しながら微妙に対応しあっている。暉峻の書が、市民という一つの立場を軸に歯切れがいいのに対し、熊沢の書は労働者、労働組合という従来の立場を柱にその改革を提言するために苦渋を極める。しかし、共に日本の現状を変革したいこと、それには個を確立しながら連帯することが重要という認識と主張には変わらない。この2冊の本を読み解くことで、私たちの現実的行動の指針を得ることが出来るであろう。

暉峻は、豊かさの条件として「互助と協働の世界」の確立を挙げている。本の前半で現在の市場万能、競争至上の経済社会は誤りとし、後半で「人間の連帯経済」と呼ばれている社会政策を目指すのがいいと主張している。それには、主体になる「人間」が自立し、しかも発言と行動を自律して行うことが条件になる。

暉峻はその市民誕生を自らのNGO活動に見出している。10年ほど前からはじめたユーゴの市民との交流、「国際市民ネットワーク」の事例を使って記述した第4章が本書の白眉である。先ずはこの章から読み始めることをお勧めする。

著者と同行してユーゴに行った学生たちが、その現場で鍛えられていく様子、ユーゴと日本での「青少年ホームステイ交換」の事例、その他の活動事例が、新しい国際理解に基づく「自主的に判断し声をかけあって、行動する」(P153)市民の創られている状況をよく報告している。

なかでも、95年の阪神大震災の後、ユーゴに招待されてホームステイした被災青少年たちがその後自主的にユーゴの青少年を日本に招待したいと努力し、3年の間に78万円を種々の活動で貯蓄し、それに暉峻たちが押される形で募金して実現したユーゴの子供たち招待のいきさつは、素晴らしいドラマである。彼らが体得したのは「平和！」の大切さであったという。そのユーゴの子供たちの日本での旅には広島訪問があり、何よりも平和が重要なのだという理解を共に持ったという。

問題は、このような体験を持つ若者たちを迎え入れる現代日本の労働現場、職業世界である。その現場・世界が混沌とし、衰弱している。暉峻は、日本の労働組合に対し、「効果のないワークシェアリングでお茶を濁している」(P38)と厳しい。

熊沢は、現在の日本の労働が抱える問題を4点としている。第一に失業、第二にリストラ、第三には長時間労働、そして第四にパートタイマー。その四極を解決する策としてワークシェアリングを提唱している。熊沢は、内外のワークシェアリングの理念と背景とその現実とをつぶさに点検して報告し、ワークシェアリングすべしと主張している。

ワークシェアが進んでいるフランスの事情は、「社会民主主義の政府と強靱な労働組合の協力」によるとし、「それは今のところ、働く人々が望みうるもっともベストの対失業戦略と評価することができよう」(P89)と評している。

しかし、ひるがえって日本は、暉峻が批判したように労働組合はワークシェアを一種の隠れ蓑に使うほどである。それは、90年代に入って使用者側がリストラ攻勢をかけてくる頃に労働組合がほとんど骨抜きになっていたという状況が主たる原因である。熊沢は、労働組合のサバイバル策にワークシェアへの取り組みがあると指摘している。しかし、現実には既存の組合は、人々をつなぎとめる力を失っている。人々は、どのような組織にも不信感を持っていて、組合といえどもそれは信頼に足るものとは思えないという感情を抱いている。

熊沢は、「職種グループごとの労働者の結集という新しい可能性に注目したい」(P149)と短く書いている。欧米の労働組合は伝統として職種ごとの組織である。その組合活動の原点からの出発を言っているのであろうか。そうだとすると、さらに問題は複雑で、いま、私たちは一つの職種を職業生涯で守り通せない状況で働くほかない。それがわかっているだけに熊沢は、「新しい可能性に注目」という表現に止めたのであろう。

私は、『仕事術』(岩波新書。1999年)で「仕事力」を高く持とうと提案した。職種が変わり、職場が変わっても通用する職業能力を持つことが必要と考えたからである。「仕事力」は、今風に言えば「職業リテラシー」とでもなるか。

いま私たちは、それぞれの労働や暮らしの場で、現実の制約の中で限界ぎりぎりに、その場、その時の最適解を見出す努力をして生きて行くほかない。青少年たちは、既成の職業世界を見捨てようとしている。それでは互いに辛い。世代を超えた「互助と協働の世界」を創ることに努めよう。その世界を築くには、職業倫理、生活倫理が大切な基盤である。

森 清

<http://homepage2.nifty.com/morikiyoshi/>

<農文協図書館から>サイト更新情報

2003.6.16 更新情報

◆新規収蔵図書

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklip/book/01new.html>

◆ニュース 高橋富彌さんの逝去を悼み業績を讃える

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklip/sp/200306/news1.html>

◆話題の図書『棚田の謎 - 千枚田はどうしてできたのか -』

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklip/book/03wadai.html>

日本人であればいつか見たことのある棚田の風景。

あの風景はいつからあるのだろう。

誰がどのようにして作ったものなのだろう。

そして何千枚ものたんぼ一枚一枚に、

水はどのように配られているのだろう。

山間と海辺の二つの村の千枚田を

詳細にフィールドワークすることで、

棚田の謎を解明し、

棚田の村に生きた人々の暮らしをビジュアルに再現する。

◆近藤康男文庫目録その6

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklip/book/071kondoubunko1.html>

<ことぶき大学での講演とその報告> 老いと病気体験に強く反応 原田勉

6/18、町田市ことぶき大学青空コースで「インターネットに助けられた余生」の話をした。60歳以上150人の聴衆に話をするのは初めての体験。中でも女性が95人、男性が55人くらい、最高齢は92歳の女性でした。

NHKテレビで4年前に放送したビデオを上映して、メルマガとはこんなものです。というのと「74歳が送る『電子耕』原田勉」の紹介から入る。私は5分間だけ出演しているがメルマガを出す目的を明らかにし、当時多かった中

年の自殺問題の特集し、その事例として父の自殺からいかに家族が苦しんだかを率直に話して「お父さん死なないで下さい」と訴えた。これで私の生い立ちも分かっていたが、本論に入った。

話は自殺問題の反響メールから「日の丸・君が代について」、長崎原爆の話から友人の息子さんからの思いがけぬメール。南米ブラジルから健康相談。女子高生から携帯メールでの進路相談。話の後半は私が病気してから内容が「主張したいから励まされる」存在に変わったこと。老人の健康など。

1時間半の話の反応で一番よく耳を立てて聞いて頂いたことは、私の脳内出血と多発性骨髄腫にかかってからの経過と苦悶、それに対する励ましのメールや新聞で紹介されたこと「こんなに助けられたことはない」ということだった。

終わってから82歳の女性が「私もメールやっていますよ」と励ましがあつた。質問はパソコン・インターネットの費用や手続きなど。やる気充分の声。

92歳の女性も「耳が遠いので少し聞き取れなかったが良い話でした」とお礼を言われた。聴衆の顔を見ていても「高齢になるといろいろな障害がでますね、それを若い人たちにどう伝えるかが難しいですね」というと大きく頷かれ、世代格差のなやみは共通のようだった。脚の痛いのを我慢して参加して下さっている方もあり、熱心さが伝わった。元気を頂いた感じ。

話を終えて『電子耕』でももっと高齢者の病気とそれにどう対処するかを取り上げて行かねばと思った。高齢になると目も耳も不自由になる。しかも自ら身体の痛みや心寂しい思いを表現するのが難しい。だから若い人は高齢者の内実を想像することが出来ない。老人の不幸の大きい原因がそこにある。

今後の大きな課題を頂いた思いである。

●写真と音声による報告ページ

<http://nazuna.com/tom/030618machida/page0001.htm>

<私の近況報告> 6月11日～23日 (大学生のメルマガ反応、)

6月11日、作新学院大学院の藤本研究室から「メルマガのビデオを授業に使った反応」3回目を送られてきた。その報告は『電子耕』の読者には公開でき

ないが、原田さんをご覧くださいと。以下要約すると、

「・74歳のおじいさんが書いているのに驚いた。・67歳からパソコンを始めインターネットを使いこなすのは良く覚えられるな。・自分の父が50代で自殺という辛さを世のお父さんに向けて「死なないでください」メッセージを伝えている。私の胸にぐっときた。・自分の経験を通して、家族のキズナ、お父さんへのメッセージをこめていた。自分の思い、体験、雑学なんでも、きっと読みたいっていう人はいるだろう。」など、など。

藤本さんはその外の大学でも「情報基礎論」の講義でメルマガを使い学生の反応を研究している。この秋には或る女子大学での反応を送って下さるという。

18日、町田市ことぶき大学でもメルマガのビデオと講演をしたが、その時のアンケートが近く寄せられるという。それと若い学生の反応を比べてみるのが楽しみである。

23日、文化座友の会・元会長信元安貞（曙ブレーキ名誉顧問）さんの追悼式に参列する。飾られた写真にカーネーションを捧げ故人の冥福を祈る。会場には自動車・航空機・新幹線・バイクなど車のブレーキ・部品製造関係で業績を挙げられた故人と関わりの深い人々と日本舞踊・芸能人など1000人余りが参加。会場の飾りは写真や著作・業績紹介の冊子が配られ、挨拶はいっさい無し。音楽は福島工場のあけぼの太鼓サークルの演奏と日本舞踊の和楽器がなる中、参加者はグループ毎に立食で故人を偲んでいた。文化座からは佐々木愛と女優、制作部、友の会の理事が参加、偉大な信元会長との別れを惜しんだ。

24日、多発性骨髄腫の定期検診がT病院であった。血液検査・尿検査が主であるが、貧血が少し進行しているが他に異常は無し。当分観察を続ける。

次回 113号の締め切りは7月7日、発行は10日の予定です。

113号は創刊（1999年）以来、満4年目の発行になります。

—PR—

■■■■ 劇団文化座 第117回公演 作 堀江安夫 演出 佐々木雄二
■■■□ 『若夏(うりずん)に還らず』
■■□□ ---森口豁(もりぐち・かつ)「最後の学徒兵」より---

■□□□ 公演期間 7月14日(月)～18日(金) 会場 三百人劇場

□□□□ 料金 一般 4200円 高校生以下 2100円(税込)

□□□□ ★劇団他にて前売券発売中★

その他の地方の公演スケジュールは、

<http://bunkaza.com/>

森口裕「最後の学徒兵」

<http://www.cyber-rabbit.com/katsu/books/04.html>

<http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=96032011>

森口裕の沖縄通信

<http://www.cyber-rabbit.com/katsu/>

2001年初演時情報

<http://bunkaza.com/play/urizun/200101.html>

— P R —

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名(見出し)を必ず書くこと。読みたくなる見出しを簡潔・明瞭に。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的にズバリと書き出す。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めの方に書く。
- 3、1回1テーマ、書き出し・本文・結論を10行位にまとめる。
- 4、送信する前に、何を言わんとするか、読み返し、推敲することが大切。
- 5、ホームページを持っている人は、文末にURLをつける。
- 6、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックをする。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。htmlメールもご遠慮ください。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：本体700円+税 発行日：2002年10月4日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/10.html>

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「78歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第112号
バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2003.6.26 (木) 発行 西東京市・ひばりが丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

発行部数 1763 部 **ここまで『電子耕』*****